

Team 多摩学

部屋を明るくして、画面から離れて見て下さい

インターゼミ 多摩学 研究計画発表

中川英之 萬屋政佳 小菅慧 小山明信

目次

1. 問題意識
2. 今年度 研究テーマ
3. 研究目的
4. 江戸幕府における貿易政策
5. 江戸幕府における海防政策
6. 浦賀奉行所について
7. 江戸時代にやってきた外国船・外国人
8. 結論：浦賀奉行所の変遷から、江戸幕府の政策変遷と研究目的を考える。
9. スケジュール
10. 参考引用文献

問題意識

①

欧米、アジアの国々は何を求めて日本と接触しようとしたか？ (江戸開府時及び幕末)

②

外国船の来港で浦賀(江戸：多摩の前衛地)に与えた影響とは？

③

下田奉行所と浦賀奉行所の役割の変化は？

④

徳川幕府成立直後は欧米・アジアと貿易していたが、
数百年経つとなぜ海防を強化しなければならなかったのか？

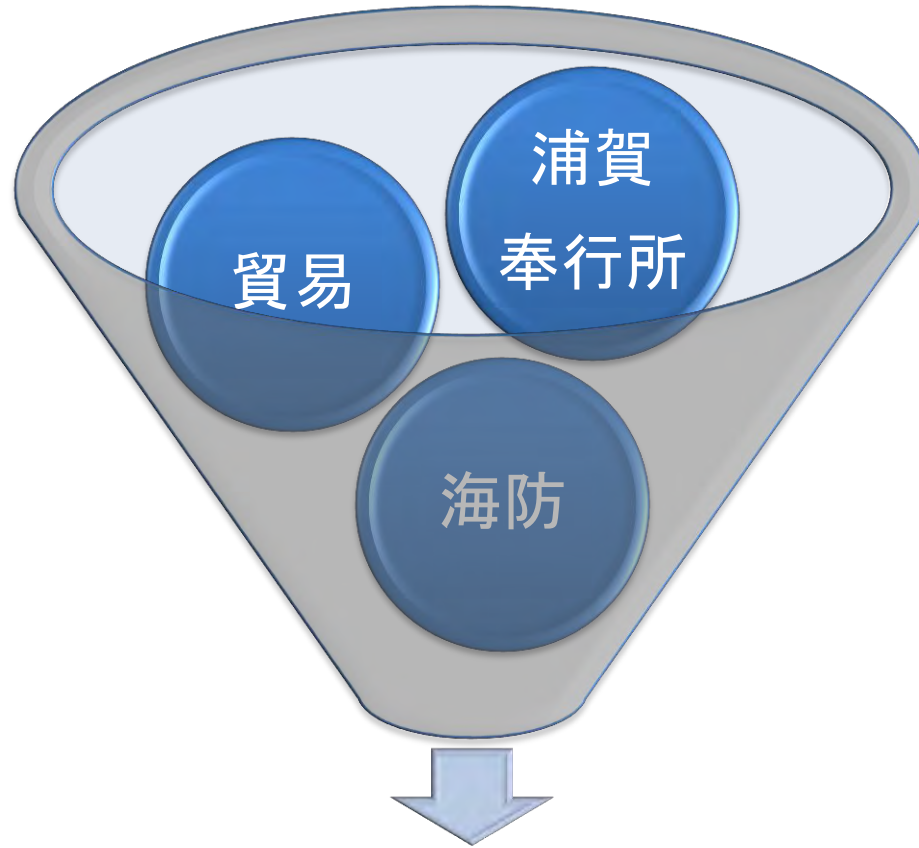
⑤

世界潮流は幕府の鎖国政策にどう影響したか？

⑥

天領としての浦賀と幕府の防衛体制？

今年度 研究テーマ



江戸幕府における貿易と海防の変遷

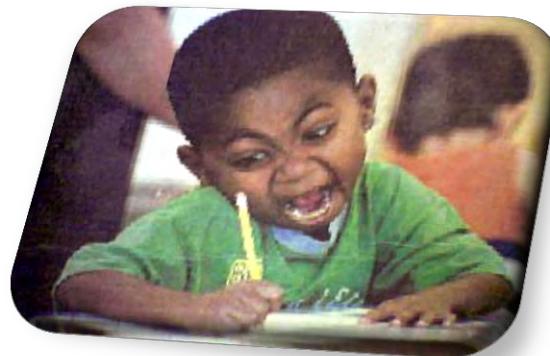
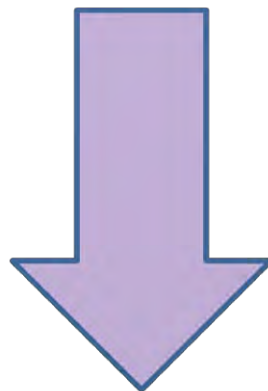
～浦賀奉行を題材に～

研究目的

浦賀
奉行所

海防

貿易



幕領だった浦賀と多摩地域に、どのような影響を与えたのか

江戸幕府においての貿易政策

家康

諸外国との通好に積極的

リーフデ号漂着(大分)
ウィリアム・アダムス(三浦
按針)

貿易顧問として雇い

イギリスやオランダ商船
招こうとした

浦賀

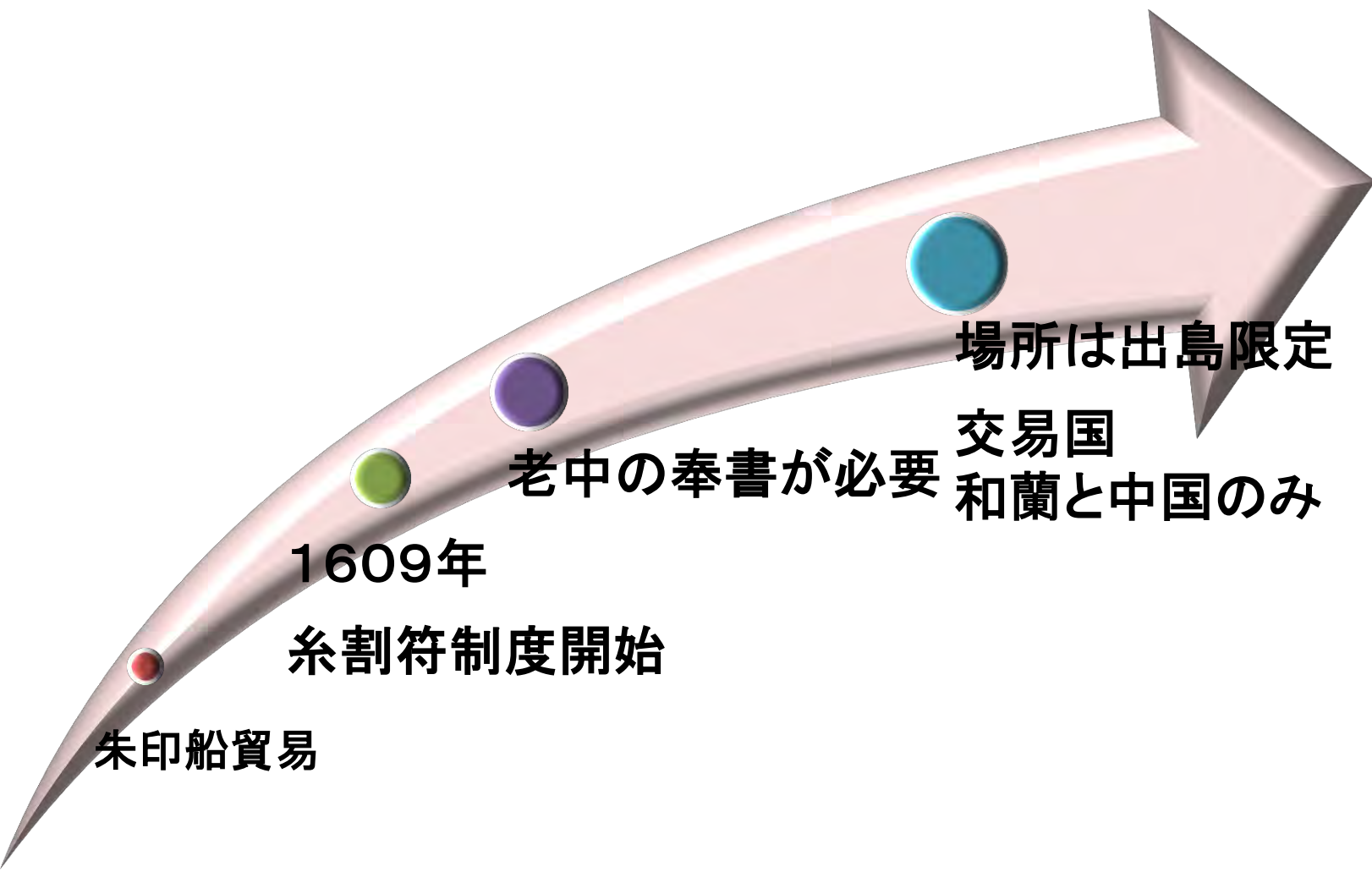
外交貿易の根拠地

横須賀市内の逸見村を与え、移住。

調べる事で

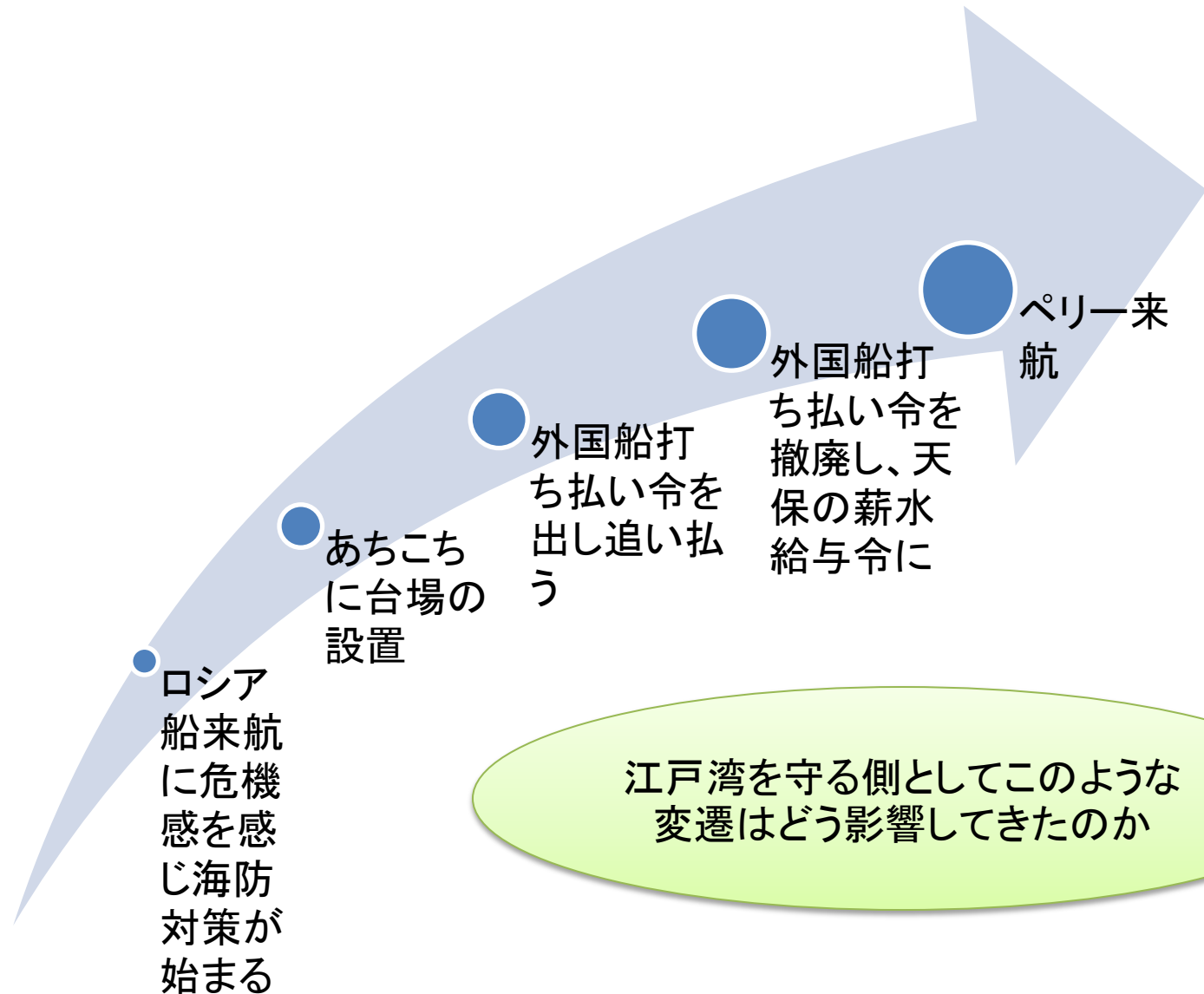
江戸幕府において、浦賀を貿易の拠点としようとした理由がわかる？

鎖国までの貿易管理の流れ



鎖国へ(1641年)

江戸湾の海防史 (18世紀)



浦賀奉行

享保五年(1720)下田から浦賀に番所を設置。
享保六年(1721)廻船取締り(船改め)が開始。

役務

- 船舶の監督、米・武具をはじめとする積荷の検査(船改め)、相模・浦賀の民政裁判を行う。

番所

- 廻船問屋
- **三方問屋**
- 下田問屋
- 西浦賀問屋
- 東浦賀問屋

下田奉行

元和二年(1616年)伊豆下田の須崎浦の山先に仮番所を設けた。
元和九年(1623年)下田の大浦に本格的に建設した。

役務

- 江戸に入津する諸国の廻船の積荷を点検して通好許可の切手を与える業務。
- 不正な積荷をしていないか船改めを行っている。

番所

- 廻船問屋
- 下田問屋

三方問屋と 廻船問屋の役割

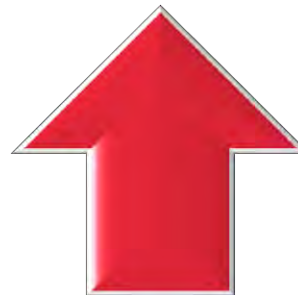
湊に入る船舶の
荷物調査・点検

贅沢品(庭石や遊具)と
米・油・塩・酒・味噌・醤油・
木綿・ほうれい綿の流入量
の調査

三方問屋と廻
船問屋の
役割

灯明堂の管理

諸国の廻船の乗組者の船
宿と商品売買の委託



長崎奉行

幕領で、交易を専要に
していて、実務は地役
人に任せ、中国・オラ
ンダ貿易を管理するこ
とを優先していた。



浦賀奉行

幕領で、江戸に物流を
送るために三方問屋
(廻船問屋)の役割が
大切である。

江戸時代にやってきた外国人・外国船 (1580年～1640年)

	イギリス	オランダ	ポルトガル	スペイン
1584			平戸	
1596				サンフェリペ号
1600		ウィリアム・アダダムス(三浦按針)		
1613	ジョン・セーリス			
1639			来航禁止 (鎖国の完成)	
1641		商館を平戸→長崎出島		

江戸時代にやってきた外国人・外国船 (1760年～1832年)

	ロシア	オランダ	アメリカ	イギリス
1778	蝦夷地厚岸 →通商求める			
1792	ラックスマン →根室、通商			
1797		ドーフ →長崎入港		
1803			長崎来航 →貿易要求	
1804	レザノフ →長崎、貿易			
1807			長崎来航 →薪水求める	
1808				フェートン号 →長崎港侵入
1816				琉球来航 →貿易求める
1817				浦賀に来航
1818				ゴードン →浦賀、貿易
1822				サラセン号 →浦賀来航
1832				ロード・アマースト号 →通商要求

江戸時代にやってきた外国人・外国船 (1836年～1854年)

	ロシア	オランダ	アメリカ	イギリス	フランス
1836	漂流民護送 →択捉島来航				
1837			モリソン号 漂流民護送して浦賀来航		
1840		長崎入港 →アヘン戦争勃発情報			
1841			中浜万次郎 太平洋漂着→アメリカ船救出		
1843	漂流民護送 →択捉島来航				
1844		使節コープス →開国勧告			琉球来航 →通商要求
1845			捕鯨船 →漂流民護送し浦賀来航	琉球来航 →開国強要 サマラング号長崎	
1846		長崎入港	ビッドル →浦賀来航、通商求める	琉球来航	琉球来航 セシユ→長崎来航、薪水要求
1848					琉球来航
1849			プレブル号長崎来航	マリナー号→浦賀来航	
1853	プチャーチン →長崎来航		ペリー、浦賀に来航		
1854	プチャーチン →長崎再来 ディアナ号 →大阪来航		ペリー、神奈川沖来伯	東インド艦隊司令長官 官スターリング →長崎入港	

江戸時代にやってきた外国人・外国船 (1855年～1859年)

	ロシア	オランダ	アメリカ	イギリス	フランス
1855				イギリス艦隊 →函館入航	フランス艦隊 →下田来航
1856	使節ポシェット →下田に来航				
1857	使節プチャーチン →長崎来航				
1859		シーボルト →長崎再来			

浦賀奉行所の変遷から 江戸幕府の政策変遷と研究目的を考える

下田奉行所から浦賀奉行所に移った。

江戸が近くなって、江戸湾を守りやすくなった。

外国船の出現で、浦賀の海防を強化

浦賀奉行の存在が江戸幕府や海防の流れが見られる

変遷

浦賀奉行所

スケジュール

7月

- 方向性確認

8月

- 合宿
- 中間発表

9月

10月

- 論文作成開始

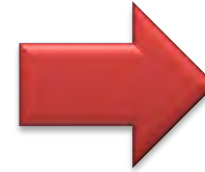
11月

12月

- 最終発表

1月

- 最終論文提出！！
- 地域プロジェクト発表



浦賀を知る！

無知からの脱却！



多摩地域を知る！

多摩地域との
関係性を探る！

参考引用文献

- 歴史学研究会編 「日本史年表 第4版」 岩波書店 2001
- 高橋恭一 「浦賀奉行」 学芸書林 1976
- 半島史研究会編、安池尋幸監修 「新稿 三浦半島通史」 文芸社 2005
- 佐藤文明 「未完の『多摩共和国』新撰組と民権の郷」 凱風社 2005
- 川口謙二、池田孝、池田政弘 「江戸時代奉行職事典」 東京美術 1983
- 山本博文 「ペリー来航歴史を動かした男たち」 小学館 2003
- 外山幹夫 「長崎奉行（江戸幕府の耳と目）」 中公新書 1988
- 梅村志郎 「横須賀倶楽部 二号」 海幸社 1992
- 山本詔一 「私たちの町・浦賀」 浦賀公民館 1996
- 横浜市歴史博物館 「海からの江戸時代 -神奈川湊と海の道-」 (財)横浜市ふるさと歴史財団 1997
- 飯島虚心 「葛飾北斎伝」 岩波書店 1999
- 斉藤善之 「内海船と幕藩制市場の解体」 柏書房 1994
- 寺島実朗 「17世紀オランダ論から見えてきたもの」 岩波書店 (2010) 11-12, (2011) 3-4, 12, (2012) 1, 3-4, 7
- 羽根田正明 「多摩の古道と伝説」 有峰書店 1977
- 大野延胤 「松本斗機蔵 幕末の開明派、憂国悲運の幕臣 -その人と献策」 近代文藝社 2011

ご清聴ありがとうございました

